

チェルノブイリ通信

2014年9月20日

No.97

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106)(普)1030416



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



太陽の恵みを体いっぱいを感じる夏を終え、ベラルーシにも秋が訪れる。

特集：木村真三先生講演会・報告

被災地の住民とともに活動する専門家
からの最新報告

医療支援の歴史をふり返る(3)

連載 理事のすっぴん部屋(2)

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

2015年カレンダー販売とイベント案内

募金者のお名前とメッセージ

被災地の住民とともに活動する専門家からの最新報告

7月20日(日)、九州大学西新プラザにて木村真三先生(獨協医科大学准教授・放射線衛生学)の講演会を開催しました。第一部…木村先生による基調講演、第二部…木村先生×山田英雄さん(ロシア語医療通訳)の対談というプログラムで、福島県二本松市での取り組みや、7月はじめのベラルーシ訪問の様子などを紹介いただきました。

(この事業は(公財)福岡よかトピア国際交流財団より、国際交流活動助成金を受けて実施しました。)

第一部 木村真三先生による基調講演

誰のために、何をすべきか

今から15年前の1999年、東海村JCO臨界事故がありました。当時私は、科学技術庁の所管にあつた放射線総合医学研究所の研究員になつたばかりでした。「とんでもない事故が起きた」という一報を聞き、すぐに現地へ入ろうとしました。しかし科学技術庁からストップがかかりました。

このとき私は「専門家の研究、活動は誰のためなのか?」という疑問を抱きました。そして「チェルノブイリのような事故は日本で

も起こる可能性は十分にある。もし事故

が起きた場合にどう対応すればいいのか、被災者一人一人のために専門家として何をしなければならぬのか?」ということを生涯の研究テーマとして考えるようになりました。その結果、チェルノブイリの研究、支援は今年で15年目になりました。今もって問題を抱えているチェルノブイリ汚染地域の現状をつぶさに観察しながら、そこで暮らす住民に対してどういった支援ができるか、またそうした支援をどうやって福島へフィードバックさせるかを考えながら活動しています。

「測ること」「知ること」

福島での事故からたった3年しか経つておらず、すべての検査が終わっていない段階です。被曝の影響についてまだ結論が出ていない中で、「危険だ」「大丈夫だ」といった判断はできません。だからこそ徹底した食品管理を行い、線量を測る。多様な予測、データを重視しながら測り続けるというのが二本松市の方針です。

二本松市では毎年7月はじめに空間線量率を事細かに測定しています。これまでの調査から、事故のあつた2011年と翌年以降とを比べると、後年のほうが線量が高くなっている地域もあることがわかっていきます。そのため、放射性物質が動いていくことを市



民に公表し、危険な区域の周知徹底を図っています。また母乳検査、市内20ヶ所での食品の測定や水の検査、給食の食品測定、土壌測定も行っています。子どもたちが食べるものに関しては、10ベクレルを超えたものはすべて出ません。

福島の汚染状況を伝え、「こんなところに人を住まわせていいのか」という報道のされ方がありません。現状を外の世界へ発信して

くださることはありがたいですが、そこで暮らしている人たちに ついては一切触れられていません。汚染された地域に住まわざるを得ない人たちのために何をすべきか。被曝や健康被害を防ぐためにできることは、徹底してやっています。汚染の状況を伝えるのならば、その対策はどうすべきかというところまできちんと伝えなければ無責任ではないでしょうか。

「記録するんよ」

福島県は原発事故から3ヶ月後、2011年3月11日時点で福島県に居住していた人々に対して



プレスト州立内分診療所の受付窓口。この日も検査に訪れる外来患者の姿があった(上)
受付の後ろにはカルテがアルファベット順に整理されている(下)
(いずれも7月に木村先生がベラルーシを訪問されたときに撮影。写真提供/山田英雄氏)

県民健康管理調査票を送付しました。この調査について国連人権委員会のアナンド・グローバー氏は次の問題点を指摘しています。第一に調査開始があまりにも遅すぎたこと。第二に事故当時の負傷に関する医学的な質問項目が欠如していたこと。そして最後に、これまでのがん検診、甲状腺疾患、放射線治療等の履歴や、喫煙のような病気を引き起こす危険因子に関する質問項目が含まれていなかったことです。そして23%(2012年10月時点)という低い回答率と、事故から3ヶ月後という時間差が生じていることから、この調査では原発事故の健康への影響を正確

に把握し、評価することができない可能性がある」と報告をまとめました。

これについて福島県当局は、「回答率は23%であるが、原発立地周辺町村、すぐに避難をした

地域の回答率は50%を超えているから大丈夫」という見解です。しかし事故後ただちに避難ができた地域には、爆発前に避難をした人がたくさんいます。相馬郡飯館村や伊達郡川俣町の山木屋地区といった迅速な避難ができなかったところは別ですが、それ以外の浜通りの地域の被曝量は、福島市、郡山市、二本松市といった中通りの地域に比べてずっと少ないのです。現場に立ってみれば、誰が一番の犠牲者なのが見えてきます。それは避難できなかった中通りです。浜通りよりも中通りの人たちのほうが被曝量は大きい。それにもかかわらずこの回収率の低さでは実態を正確に捉えているとは言えません。

健康管理と、将来的な問題に備えるための放射線教育

ベラルーシでは、存命期間+10年の間カルテを保存することが法律で決まっています。一方、日本の医師法では5年間しかカルテの保存期間はありません。過去の原爆症や水俣病など、記録が残されていないばかりに何十年と辛い

思いを続けていらっしゃる方は多く存在します。そこで二本松市では健康管理の一環として独自の健康手帳を作成し、全市民約6万人に無料配布しています。

また市で放射線に関する独自の教材を作成し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間一貫の放射線教育を進めています。私も教壇に立ち、被曝を避けるための予防策、病気になったときの対処を自分自身でできるように、放射線について正しく理解しましょう、健康診断や甲状腺の検査をきちんと行いましょうと子どもたちへ伝えていきます。また小学校高学年からは、次のような話をします。

「皆さんは放射能の問題はもう終わったと感じているかもしれませんが。でも戦いはこれからです。将来皆さんは、進学や就職などで福島を離れたとき、恋愛や結婚に対して福島県出身だという理由で差別を受けるかもしれません。そうした問題に直面した場合に被曝の状況や遺伝的な影響について正しく説明できる大人になってください」

酷な話ですが、子どもたちは真

剣に耳を傾けてくれます。現状だけでなく、今後起こりうる問題への対策も重要な課題です。

チェルノブイリのデータから見える福島の今後

ベラルーシ西部にあるブレスト州は、チェルノブイリ原発から州都ブレスト市で500キロ、一番近いところで250キロという距離にあります。福島第一原発から東京までが約250キロ。500キロはだいたいの名古屋のあたりです。このブレスト州では、2008〜2012年の間に890例の甲状腺がんが見つかっています。そのうち事故前に生まれた方々が圧倒的な数を占めていることが

ら、放射能による晩発的な影響がみられることがわかります。

ベラルーシでは事故から28年経った今も右肩上がりに甲状腺がんが増えています。もちろん原発の構造の違いなどはありませんが、仮にチェルノブイリ原発からブレスト市までの距離の10分の1とした50キロ近辺——福島市、郡山市、二本松市などが該当しますが、こうした地域で今後甲状腺がんが多発する可能性があるかもしれません。それを調べて正しく対処するためには、ブレスト州で行われているような長期的な検診を日本でも行うことが必要です。

まだよくわからない だから検証することが大事

私は「反証可能性のないものは科学ではない」という考えです。きちんと測り、裏をとる。そこにさらに疑問をもちながら何が原因かということ突き詰めていく。これで初めて科学だということとです。意見を求められたときには、自分で実証していないものを「こうです」とは言い切れません。きちんと検証しないまま意見を述べてしまえば、かえって福島の方々に傷つけてしまう行為になりかねないからです。例えば鼻血の問題です。

方もいらつしやいます。もし事故直後だったら、きちんと関心を持って考えてもらえたから良かったかもしれない。でも3年経ったタイミンクでは、確かに「忘れてはいけない」という思いもあったでしょうが、その間に形成された様々な立場の、それぞれの痛みというものに配慮した対応でなければいけなかったのではないのでしょうか。こうした様々な立場の人びとを受け入れ、それにどうやって対応していくかということが現地で迫られている一番の問題です。

大震災・福島第一原発事故による心身への影響

福島、チェルノブイリのどちらにも関わる問題として、心身への影響があります。すでにウクライナと福島とでPTSD(心的外傷後ストレス障害)の症状についての比較調査をはじめています。避難せざるを得なかった人たちが、自主的に避難された方々、それぞれの苦悩が存在し、線引きをすることはできません。こうした方々に対して心のケアをしていくことも必要です。



ブレスト州内の汚染状況を表す地図
放射線衛生センターにて



同センターにて地元のテレビ局から取材を受ける
中央は山田医療通訳



リュドミラさん、愛娘のアンナちゃんと。
ミンスクにて

第二部 対談…木村真三先生×山田英雄さん

ベラルーシではリュドミラ・ウクラインカさんという女性にお会いしました。リュドミラさんは誤診によって手術を受けて甲状腺がなくなつたために、一生涯ホルモン剤の力を借りないと生きていけないことになりました。退院後も体の不調が続き、精神的に不安定な時期もあつたというお話をうかがいました。しかし彼女はそれのつらかつた経験を、同じ境遇にある人たちのために役立てたいと考え、後に心理カウンセラーとして甲状腺の病気で苦しむ子どもたちの心のケアに取り組むようになられたということでした。

誤診を防ぐために検査の精度を上げていくこと、そして手術をされた方々の苦しみにきちんと対応していくことも今後の重要な課題です。これらもチェルノブイリの経験としてベラルーシから学ぶことのできる一つではないでしょうか。こういった繋がりができることで、医療支援の輪が広がっていくのではないかと考えております。

山田 先生は2度目の訪問ということでしたが、ベラルーシの印象はどんなものでしょうか。

木村 ベラルーシは独裁国家と言われますが、国が責任をもって医療や教育のサービスを提供していると思います。人々は本当に豊かな顔をしています。確かに独裁政権のデメリットはあるでしょうが、政治的な混乱を抱えるウクライナと比べるとベラルーシのほうがずっと人間らしい生活ができているのではないかと感じました。

山田 第一部でお話になったPTSDについて、チェルノブイリでは議論は

は議論はなされたものの、多発した小児甲状腺がんの対応に追われたた



めにそちらは後手にまわされるという経緯がありました。今回ベラルーシ訪問に同行された小正先生(心理学専攻)は、福島でも時間の経過とともにPTSDへの対処が不十分になっていくのではと危惧されていました。

木村 実際に仮設住宅に足を運んで高齢者の方から話を聞いていますが、心の問題を抱えている高齢者はたくさんいらっしゃいます。現在、福島県内や県外避難者の方々に対する聞き取り調査から、PTSDやうつ病といった症状を事細かに調べ、対策を考えるとという活動をしています。

山田 プレスト州、モギリョフ州の医療現場はいかがでしたか。

木村 プレスト州の放射線衛生センターでは、現在でも焼却灰、土壌、食品等の測定が続けられていました。二本松で今後20、

Profile／

木村真三(きむら しんぞう)

1967年愛媛県生まれ。獨協医科大学准教授、同学国際協力支援センター国際疫学研究室福島分室室長。専門は放射線衛生学。

2011年3月の福島第一原発事故直後から、当時の職を辞して福島へ入り、被災地の住民とともに放射能汚染の調査を続けている。またチェルノブイリ原発事故で被害を受けたウクライナ共和国へも幾度となく訪問し、ジトミル州ナロジチ地区の住民の健康調査にも取り組んでいる。



Profile／

山田英雄(やまだ ひでお)

1947年生まれ。広島出身の被ばく二世。幼い頃から原爆の後遺症に苦しむ母の姿を見続ける。高校卒業後、モスクワのパトリス・ムルンバ民族友好大学医学部に進学。旧ソ連の

医師免許を取得する。CMNの医療通訳を務める他、医療と語学の能力を生かして旧ソ連圏を中心に核被災者支援に携わり続けている。2013年にはこれまでの平和貢献活動の功績が認められ、「ピースアワードHIROSHIMA」を受賞した。



30年と放射線量を測り続けるという長期的な計画がありませんが、実際にブレスト州で同じことが続けられているのを見て、感動を覚えました。今後はブレスト州での甲状腺がんと線量の関係について調べたいと思います。

ブレスト州では汚染が低いとされる地域でも甲状腺がんが多発しています。しかしこれは土壤汚染が低いと言われているだけであって、表面に流れてくる汚染は非常に強かった可能性があります。これは福島の場合、いわき市に通用することですし、東京都や栃木県、群馬県と

いった地域もそうかもしれない。福島県だけでなく、より広範囲にわたる影響を、ブレスト州の結果からフィードバックさせることができるのではないのでしょうか。

モギリヨフ州では実際に郊外での甲状腺検診の様子や病院を見学させていただきました。院内はトイレを含め、日本以上に清潔で、小さな地域までケアが行き届いているという印象を受けました。また第一部でもモギリヨフ州でも、カルテがきちんと管理されていました。ノートタイプになっていて、これまで

の病歴、検診における診断項目が多義にわたって記されています。これが一生涯、一冊のカルテとなる、貴重な個人の履歴です。こういったことを日本でも導入してほしいと思います。

山田 福島では、山間部の谷あい
に初期の放射性ヨウ素が集中的に堆積し、それが風に乗って流されているのではないかと、う話がありました。チェルノブイリ原発事故後、94、95年に訪問したキエフの病院では、非常に大きな甲状腺の結節、またリンパ節や肺へのがんの転移という症例を連日目にしました。これは当時同行された甲状腺専門医の武市宜雄先生のご意見ですが、放射能由来の甲状腺がんは非常に活動性が高い、そして病理学的に何か特別な特徴があるのではないかということでした。今、福島では甲状腺がんが多発しており、今後の経過も心配です。

の通り道があります。あとは大きな街道沿いです。車の移動によつて、ヨウ素の流れを作っているところが見られます。福島
の現状を見てきた中で確信したのは、放射線のリスク管理というのは本来、子どもだけでなく全年齢に対してなされなければならぬのではないかと、いうことです。国が責任をもつて、きちんとした検査をやつていくべきであり、福島だけでなく広範囲の地域で行うべきではないかと思っています。

山田 そうですね。全年齢にわたる長期の観察。しかもこれからは甲状腺だけではなく、それ以外の色々な疾患についてもそうした健康診断に含めたていかなければいけないと思います。

(※スペースの都合上、簡単な報告となりますが、詳しい報告資料もありますので、ご希望の方は事務局までお気軽にお問い合わせください。)



放射線衛生センターで使われているヨウ化ナトリウム検出器(上)
赤十字・モギリヨフ支部の検診車両。州内各地で甲状腺、乳腺の検査が行われる(中)
今回訪問したモギリヨフ州郊外の村は人口約2000人のうち半数が汚染地域からの移住者という話(下)

木村 中山間地域の谷あいや、川
の流れ、ここにちょうど気流、風

第三回：検診団派遣は、新たなステップへ —甲状腺内視鏡手術の普及に向けて—

1997年に本格的にスタートしたベラルーシでの医療支援活動の歴史をふり返ります。今回は2009年よりスタートした甲状腺内視鏡手術の発展についてご紹介します。



2009年、ベラルーシで初めてとなる甲状腺の内視鏡手術。中央が執刀医の清水先生。手術室では日本語、英語、ロシア語が飛び交い、日本とは異なる環境で困難が強られる中、回を重ねることに経験が生かされ、スムーズな手術が行われるようになっていった(上)

現地での手術に先駆け、2006年の検診で甲状腺がんの見つかったアリョーシャさん(写真右。チェルノブイリ原発から約250キロのプレスト州ピンスク地区の出身。母親の胎内で被曝した)を日本に招き、2007年に日本医科大学にて内視鏡手術が行われた。予後経過も問題なく、今では傷痕はほとんど消えている(下)

CMNの甲状腺がん検診プロジェクトに1999年から協力していただいている清水一雄先生(現・日本医科大学名誉教授、金地病院名誉院長)は、VAN

生とともに見学したプレスト州立病院では、内視鏡を用いた胆のうや肝臓の手術が日常的に行われていた。そして「器具さえ揃えば、甲状腺の手術

社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」受賞記念 医療支援の歴史をふり返る

ベラルーシにおける従来通りの甲状腺の手術では、首のあたりをU字型に切り開いて病巣部を取り出し縫合する。特に医療技術が不十分だった時代には、「チェルノブイリ・ネットワーク」と呼ばれる大きな手術痕が首元に残り、多くの患者が心の傷を負うことになった。

CMNの甲状腺がん検診プロジェクトに1999年から協力していただいている清水一雄先生(現・日本医科大学名誉教授、金地病院名誉院長)は、VAN

生とともに見学したプレスト州立病院では、内視鏡を用いた胆のうや肝臓の手術が日常的に行われていた。そして「器具さえ揃えば、甲状腺の手術

S法 (Video-assisted neck surgery) という内視鏡を用いた甲状腺の手術法を開発した専門医でもある。このVANS法では手術痕がほとんど残らず、また出血が少ない上に術後の快復も早いというメリットがある。清水先生はこの術法をベラルーシへ導入し、普及させるため、ベラルーシを訪問した際に開催する医学シンポジウムにて、VANS法に関する講義を行ってきた。その内容は、参加していた医師たちから多くの質問を受けるほど高い関心を呼んだ。

チェルノブイリから20年目を迎えた2006年、ベラルーシではルカシエンコ政権の下、各州の医療施設を拡充するという政策が打ち出された。実際、2008年秋に清水先生とともに見学したプレスト州立病院では、内視鏡を用いた胆のうや肝臓の手術が日常的に行われていた。そして「器具さえ揃えば、甲状腺の手術



も可能」との確信を得、翌年10月、良性疾患の患者に對し、ベラルーシで初となる甲状腺の内視鏡手術が行われた。慣れない環境の中で予定時間の倍近くを要したものの、手術は無事に成功。術後の合併症もなく、患者からは笑顔で「スパシーバ(ありがとう)」と、声をかけられた。

翌年以降もミンスク州、プレスト州にて症例を重ね、2011年10月の訪問時には、プレスト州立病院のイーゴル医師より嬉しい報告を受けた。自分たちで独自に手術器具を開発し、すでに何例もの手術を行ったという話だ。そして2013年に清水先生が執刀医を務めた手術では、現地で開発された器具が使用された(右写真)。

限られた環境の中で真摯に患者に向き合う現地医師らの熱意を目の当たりにし、一歩一歩ではあるが、今後さらさらこの内視鏡手術が普及していくことが期待される。

(次回へつづく)

理事の すっぴん部屋

第二回
吉本美貴×小川峰湖



皆さまからの活動支援カンパを被災者支援へとつなげるため、日々の運営を担っている私たちスタッフのことをもっと身近に感じていただきたい！という想いで企画したコーナーです。

PROFILE

吉本美貴(よしもと みき)/左

11月12日生まれのさそり座。就労局の契約職員として日系人の就職支援を行う。最近、趣味のベリーダンスでレストランショーデビューをしたとのこと。

小川峰湖(おがわ みねこ)/右

1月23日生まれのみずがめ座。メーカーの海外営業部に所属しているが、原発事故を機に3年前から福岡に戻り、現在は完全在宅勤務。お酒と音楽と読書が大好きな一児の母。

CMNの活動に参加したきっかけを教えてください

小川 現理事長の河上さんと私の父が旧友で、父経由でCMNの紹介を受け、数年前から会員でした。ですが詳しく支援や活動の内容を理解したのは3年前に福岡に戻ってきた際に「理事をやってみませんか？」と河上理事長に頼まれてからでした。それまでは、お恥ずかしながらあまりよくわかっていなかったところがありました。「医療支援」というこ

とがどういうことなのかを理解できてからは、「おもしろい活動だな、私なんかでも何か役に立てるのであれば」という気持ちで参加しています。

吉本 事故から28年が経って、いまだに活動に加わる方も少ないので、峰湖さんが理事になられた時は嬉しかったです。活動に興味があっても、「医療支援」ということで何だか難しいイメージがありますし、専門知識がないといけないのかなと思う方も多いですね、きっと。あんまり気構えず

に、参加してくれる人が増えるといいですよ。

私の場合はボランティアをやりたくて探した、というのがきっかけでした。初めはお年寄りの話し相手とか、障がいを持つ方の生活の一部の支援というのをイメージしてはいたんですが、たまたまその時見つけたのがCMNの作業ボランティアだったんです。

小川 その時は学生だったんですか？

吉本 いえ、大学を卒業して2年目くらいです。

小川 じゃあ、美容室でお仕事をなさっている頃ですよ？ とてもお忙しかったと思いますが、どうしてボランティアをやるうと思われたんですか？

吉本 その美容室の休みが月曜日だったんです。月曜日だと友達と会おうと思っても時間が合わなくて。お休みを有効活用しようと思って思いついたのがボランティアだったんです。

小川 美貴さん、えらいわ。吉本 しばらくはボランティアとして活動していて、そのうちに事務

局員を募集していると聞いて応募して、CMNの事務局員になりました。4年務めてその後理事になり、CMNとはかれこれ12年くらいかかっています。

活動に参加して印象に残っていることはなんですか？

吉本 やはり、現地に行けたことです。ベラルーシに行ってみて、被災地のイメージが変わりました。行く前はもっと暗くて、灰色のイメージを持っていましたが、実際に行ってみたら自然は豊かだし、みなさんの笑顔も明るくて。でも「支援が不要」というような状態ではないんです。大変な困難に向き合っているのですが、それを強く明るく乗り越えようとする姿に、これからも支援を続けていきたい、という思いを強くしました。

小川 そうだったんですね。それは貴重な体験だったのでしょうか。私が一番印象に残っているのは、木村真三先生の講演会です。今年に残念ながら参加できなかったのですが、私が参加したのは2013年の講演会なんですけど、この活



今年3月に獨協医科大学の招聘事業で来日したアルツール医師（中央右）、ウラジミール医師（同左）。同学准教授の木村先生（左端）より、福島第一原発事故の影響について説明を受ける

動をやっていてよかったなと思いましたが。木村先生はご自身の体調やいろいろな問題よりも、福島での支援のことを優先されていて、「本気度が違う」と思いました。かといってそれをひけらかすではなく、真剣に何ができるのかを懸命に考えて実行なさっていると感じました。福島の事故より前からウクライナでも医療支援活動をされていて、CMNもあいつつ方々と一緒に支援事業ができれば、活動が広がるのではないかと思います。あと、もう一つは2014年3月に行われた「ベラルーシ専門家による来日講演会」ですね。

現状について感じることを教えてください

小川 チェルノブイリでの経験を福島に生かす、というのが引き続き必要になってくると思っています。そのために行われたのが、「ベラルーシ専門家による来日講演会」でしたが、こういった活動を継続してゆくことが必要だと思います。

アルツールさんやウラジミールさん、また木村先生や長年活動に協力してくださっている清水先生（7ページ参照）のように、CMNにはほかにはあまりない医療専門家の方たちとのコネクションがあるのですから、それを生かしてゆきたいですね。

吉本 本来の目的はチェルノブイリ支援ですが、ほかの地域でも生かせるころがあればいいですね。CMNの活動の特色を生かした、どこにでも通用するようなノウハウのようなものがあればよいのですけどね。ベラルーシでの甲状腺がんについての医療支援のノウハウは、そのまま福島には導入できないので、何かできることを探すのも大事だと思います。

最後に、今後やりたいことは？

小川 個人的に私ができることはそんなに多くはないですが、CMNの活動を広く知らせるための活動ができていくといいですね。まずは知ってもらうことから始まると思うので。CMN全体としては、チェルノブイリでの経験を福島に生かすことをどうやって継続してゆくかがやりたいことであり、やるべきことだと思います。

吉本 峰湖さんは、3・11を受けての母親の視点と、CMNの理事としての視点、両方を持っていらっしやいますもんね。多角的に見て捉えて、感じたことを伝えていくことは、貴重なことだと思います。

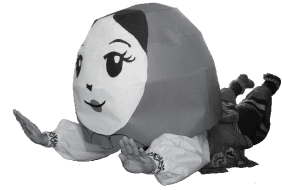
私は今、関東に住んでいるので、こちらにいる間にできることをしたいなと思っています。首都圏には、NPOの活動をサポートしてくれる団体や企業が福岡より

も多いので、そうしたところとCMNをつなげていけたらと思います。



2003年、初めてのベラルーシ訪問。医療支援の現場に触れ、被災地の人々の温かさ、たくましさを実感する

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆6月11日 NGO合同説明会 in 西南学院大学



70名以上の参加者

昨年につづき、NGO福岡ネットワーク(FUNN)と西南大ボランティアセンターとの共催による合同説明会にブースを出展し、大学生の皆さんへ活動紹介などをしました。「時期が合えば、ベラルーシに行きたい」という声もあり、今後そうした訪問ツアーができるのではないかと思います。

◆7月5日 NGO合同説明会 in 九州大学



ボランティアの経験談を語る平川理事(左)

前月の西南大につづき、FUNNと九大との共催で行われた合同説明会に参加しました。今回は学生さんが主体となったワークショップ、ボランティア活動やスタディツアー参加経験者からの報告、対談などもあり、参加された学生の皆さんにとっても色々と参考になったのではないかと思います。

◆7月7日 北九州市立大学へ講師派遣



河上理事が講師を担当

今年も「NPO論」の外部講師として呼んでいただきました。1年生を対象に、団体の結成から現在の医療活動、震災支援などについて説明しました。専門的な内容もあり、ちよっと難しかったかもしれませんが、活動に興味を持ってくれる方がいたら嬉しいですね。

◆7月15日、24日 NPO商品勉強会



第1回目の勉強会

福岡県の「NPO商品の認知度向上・購入機会提供事業」の一環として実施された勉強会へ行ってきました。販売コーディネーター、デザイナーの講師の方々から色々な実例を交えたお話を聞くことができ、大変参考になりました。今後に生かしていきたいです。

◆8月3日 第5回ラフ&ピースフェスタ



展示パネル

昨年につづき、ブース出展とパネル展示、ステージでの活動PRをしました。あいにくの雨模様で、例年に比べ来場者が少なかったのがちよっと残念。パネルはここ最近のベラルーシ訪問の写真などを新たに作成。今後のイベントでも活用していきたいです。

★ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ★

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品(コーヒー、紅茶、のぞみ21雑貨、震災支援グッズなど)を合計5千円以上ご注文いただいた先着15名の方に、ベラルーシのお土産をプレゼントします！

期間 2014年 9月15日(月祝)～10月15日(水)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



※プレゼントは9月のベラルーシ訪問中に仕入れるため、ご注文の商品とは別に遅れて発送する場合があります。予めご了承ください。

EVENT SCHEDULE

ニーナ先生と学ぶ ベラルーシ料理教室

ご予約
受付中



ロシア人講師を迎えた料理教室を開催します。普段はあまり食卓にのぼることのないロシア、ベラルーシの家庭料理づくりにチャレンジしてみませんか？
(写真はイメージです)

日時：11月2日(日) 13:00~15:30
会場：古賀市中央公民館研修棟106号室
(古賀市中央2-13-1, JR古賀駅より徒歩約6分)
参加費：1200円(講師料、材料代)
定員：20名(先着順)

ベラルーシ訪問団 帰国報告会

予約
不要



国際協力フェスタ「地球市民どんたく2014」のワークショップです。今年9月に実施予定のベラルーシ訪問事業の帰国報告会を開催します。ぜひ足をお運びください。

日時：11月16日(日) 13:30~15:00
会場：アクロス福岡2F・セミナー室 2
(福岡市中央区天神1-1-1)
参加費：無料 定員：70名(先着順)



ご予約
受付中



チャリティヘアサロン スネガビーク2014

プロの美容師さんにお手ごろ価格で髪を切ってもらってオシャレになって、しかもチェルノブイリ支援にもなるという一石二鳥のヘアサロンです。イベントの収益は、チェルノブイリ原発事故および東日本大震災で被害を受けた方々への支援にあてられます。ご予約は、「こくちーず」または事務局までお気軽にどうぞ。

日時：10月13日(月祝) 10:00~15:00
会場：大村美容ファッション専門学校オムニス・スタジオ
(福岡市中央区大名2-1-35-2F)
料金：1500円(シャンプー、カラー、ブロー)
こくちーず：<http://bit.ly/1n9TdMa>

予約
不要



マトリョーシカ 絵付け体験

国際協力フェスタ「地球市民どんたく2014」のワークショップです。白木のマトリョーシカに色付けをして、世界にひとつだけのオリジナル作品を作ってみませんか？
白木マトリョーシカはフェスタ当日、アクロス福岡2F・交流ギャラリー内の「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」出展ブースにて販売しています(1000~1500円程度)。

日時：11月16日(日) 13:30~16:30
会場：アクロス福岡2F・セミナー室 1
(福岡市中央区天神1-1-1)

国際協力フェスタ「地球市民どんたく2014」は、11月15日(土)、16日(日)の2日間、11時~17時まで開催しています。入場無料です。

2015 CALENDER



2015年
カレンダー

「ナジェージダ(希望)」

本橋成一さんの写真集「ナジェーの村」を題材にしました。カレンダーの収益はチェルノブイリ、福島での原発事故で被災された方々の支援にあてられます。10月中旬より販売開始予定です。ご予約も受け付けています。別刷りチラシもあわせてご覧ください。

¥1,000-
(税込・送料別)

カラー 28P・中綴じタイプ
(※写真はモノクロです)



編集
後記

スペースの関係で最終ページに皆さまからのメッセージを掲載できず、申し訳ありません。次号では秋のイベントやベラルーシ訪問のようすをレポートしたいと思います。お楽しみに。(み)

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

相川綾子 愛下絹代 青木雅子 赤尾恭子 秋永優子 秋葉靖子 秋山茂樹 吾郷
朱美 朝倉絹代 浅田稔 浅原望樹 亜細亜食堂力工 麻生憲子 安達邦子 熱田
絵美 阿部十恵子 阿部陽子 荒木京子 荒木寿子 荒木洋子 荒畑祐子 荒牧
裕見子 有川隆子 有田美佐子 安徳妙子 案浦小白合 安保里美 飯田晴美 飯
星悦子 井形ツネ子 五十嵐陽子 碓方子 池田妙子 池田直美 石井由美子 石
川宏子 石川弥生 石田典子 石橋敬子 石見登記子 石牟礼宮子 泉寛貴 和泉
典子 和泉省一 泉田慶子 磯野智美 磯本直子 磯本真澄 板井順子 板野みえ
子 市川友子 市橋幾子 一橋典子 市原美蓉 井植高子 伊藤まゆみ 稲垣あり
さ 稲吉清子 犬塚成子 井上郁子 井上恭子 井上聡子 井上知子 井上直美
井上雅代 井上三子工 井上美津子 井野口典子 今林多津子 今村智美 今村美
代 井本節子 岩尾知子 岩尾美香子 岩佐田未子 岩崎美由紀 岩下さぬ代 岩
下千保美 岩永清子 岩原永子 岩見文子 岩本美津貴 上田玲奈 上野恵子
上野三佳子 鵜狩ひとみ 内田明美 内田善子 内布浩子 内野雅子 内堀由美子
内村由起子 宇都宮裕子 浦木香 浦部幸 浦本麗子 江上聖子 江川由利子
浴本泰子 江口恵美子 江越文恵 江崎好枝 枝光淳子 枝田由紀 恵藤蘭子 衛
藤祐子 櫻本みつ枝 遠藤公 大石麗子 大石千枝子 大橋英子 大江淳子 大隈
和子 大城さゆり 大城りか 大峰百代 大里恵子 太田弘子 太田季枝 太田尾
吉祐子 大谷美香 大塚光子 大坪真理 大西寛子 大場和美 大森由美子 大尾
原初美 大平美紀 大村和子 大村ちさ子 大森智子 大森久美 大森宗美 大八
木多美子 大山めぐみ 岡崎いづみ 岡崎美知子 緒方和恵 緒方典 緒方英子
緒方靖子 岡原あずさ 岡部悠久子 岡村穂子 岡本珠美 岡本順子 小河ひとみ
沖佐和子 沖佐真理 沖村典子 奥塚志 小原あけみ 長田慶子 小関敦子 小
田厚子 小田文代 乙吉英子 尾西めぐみ 鬼塚光子 甲斐直美 甲斐美紀 加来
恵子 加来真由美 覚雲寺 笠忍 梶原孝子 加島文子 勝田由起子 勝本芳子
勝連夕子 加藤美千代 嘉藤幸子 要千草 金元倍美 金竹明美 金丸裕美
金山涼子 加納桂子 梶島真由美 謙田規義 上柿元啓子 紙森優子 亀井美智
子 亀山光子 茅野哲子 辛島恵里 狩野とよみ 川上真樹 川上みちこ 川久保
美和子 川崎嘉子 河嶋いつみ 河津輝子 河津真寿美 河野章子 川野しのぶ
河野蘭子 川崎由佳子 河村さゆり 河内タキ 河村多母恵 河本亜紀子 河本香
神田章子 菅野智子 菊岡優子 菊池智子 菊岡みどり 木戸洋子 木下由香
木下由美子 木村里美 木村まゆり 木元良子 久間優子 清田奈保美 清原凡美
清原隆子 久代百合子 工藤春美 國藤早百合 久保銀子 久保美子 久保基幸
子 久保山彬子 熊谷美恵子 熊野千恵美 熊野徳子 熊本加代子 栗栖陽子
黒田明穂 黒田由喜江 黒田庸子 黒田玲子 桑木和 嶽崎真美子 桑原恭子
古泉泉子 胡内峰子 河野敏子 香江ささ子 古賀敦子 古閑京子 古賀智子 古
賀藤子 古賀美奈子 古賀美芳 古賀律子 国分千尋 古崎美知子 小尻泰子
故蓮浩子 小谷節子 小谷美津子 後藤郁子 後藤契子 後藤じ枝子 小林敦子
小林智子 小林知子 小宮田鶴子 小室美保子 古谷久美子 小山博子 近藤
清香 近藤伸子 近藤麻衣子 西郷理恵 齊田玲子 坂井智子 酒井佳子 栄公
仁子 坂田幸子 坂田貴子 佐方肇子 坂田文江 坂西愛 阪本由美子 崎野則

合計

活動支援金 2,850,468円
のぞみ21カンパ 2,732,468円
雪だるま3号カンパ 28,250円
東日本支援カンパ 24,250円
65,500円

子 作田香衣子 佐々木郁江 佐々木靖子 貞光紀子 定村洋子 定本さゆり 佐藤
久美 佐藤孝子 佐藤祐江 佐藤扶美 佐藤満喜 佐藤雅子 佐藤裕子 佐藤洋子
佐藤良江 佐藤良子 佐坂重行 澤江展子 澤田和子 澤野信子 重村雅子 柴尾菜
津子 柴田好美 浪田道子 島田和子 島田まゆみ 清水和子 志水昌子 土上井和
子 新幸子 進藤輝幸 新野智子 出納美智子 尾石貞子 尾石洋子 末永百代 末
松真理奈 末吉純子 末吉美和子 杉本乃里子 鈴木泉 鈴木きぬ子 鈴木知子 角
田真知子 隅田三和 関根敏子 関根美津子 千田谷治子 曾田久栄 園田悦子 高
尾真里子 高木恵子 高木幸子 高木節子 高澤美貴 高田恵子 高田小白合 高田
淳一 高塚庸子 高鍋サチヨ 高野里美 高橋武三 高橋久子 高橋文子 高松啓子
高森裕子 高山幸子 竹内早苗 竹内徳子 竹崎孝子 竹田節子 武田律子 田子
森綾 グルーブ・イーハートワ 田添美鈴 立川明美 立石肇 田中厚子 田中輝子
田中輝美 田中直子 田中三庫 田中三 田中啓 田中裕子 谷口静子 谷口壽子
種和子 玉井タマエ 田宮ひろ子 垂水博美 趙美麗 塚田みき 月形恵 辻原代
辻田文香 津田千鶴子 土森直美 統尚子 堤奈津枝 塚ひとみ 恒川美知子 坪
根小白合 坪山美由紀 鶴田かず美 手島美智子 寺川忍 寺嶋伸子 寺園幸子 道
家鈴 時井純子 徳永加恵 得能美樹 徳丸美紀 登田典子 富田明美 富田澄子
豊田昌子 鳥越まち子 頼田澄子 長井和子 長岡晴美 中上尊子 中川あき子 永
倉郁代 中島幸子 永島高子 長瀬清 中田文治 永富克子 長野綾子 永野清美
長野伸子 永野路子 中野容子 長原京子 中原由紀子 中平ひろみ 中丸茂子 中
村成子 中村次郎 中村テル子 中村利子 中村智子 中村美穂 中村幸枝 永易早
苗 中山田さき 浪瀬美恵子 榑崎悦子 成迫秀美 成田和美 成松ムツ子 南里
恵美子 新本真希子 西加代子 西岡浩子 西迫朝子 西嶋香穂子 西田俊江 西田
万理子 西田美智子 西田由未子 西谷純子 西林はるひ 西原汎子 西原美恵子
西村元子 西本佐和 西山智子 日本医科大学学長 田尻孝 猫田久美子 野口厚子
野田朱美 野中久美子 野々口紀子 箱崎水族館喫茶室 箱田裕司 橋本直子 橋
本陽子 長谷川富恵 波多野ミチエ 畑山英子 初山智子 花田智子 花田ひろ子
馬場由輝子 浜崎真有美 浜田真理 林恵美 林和子 林景子 林康治 原田晴香
原野由美子 針生千秋 伴素子 萬代朱美 日笠理恵 恵恵 東田とみえ 久枝美智
子 樋田トモ子 日高太 日高生登美 樋上淳子 平井よし子 平澤和世 平田知代
子 平野景子 平野妙子 平野みどり 平林梨花 平山松美 平山康子 広瀬恵美子
廣瀬香澄 廣瀬陽代 広瀬智代香 広瀬富貴子 広瀬祐子 廣田偉久子 廣田葉子
広渡由美子 深堀ミチ子 深水陽子 福井恵子 (公財)福岡YWCA 福田多加子
福田輝子 福永弘恵 福原智美子 福岡よしの 福山知恵子 福山光子 藤井和子
藤井生子 藤井千草 藤田栄子 藤田達子 富士瑛子 藤井洋子 藤本春子 藤
本博子 藤原和恵 藤原由紀子 船越和美 古井悦子 古田充子 古橋葉子 幣旗恵
美子 星桃子 堀純子 堀純子 本多慶子 本田芳子 本間久美子 前垣義弘 前田
淳子 前田泰子 牧幸子 正岡知子 舩添祐美子 増田朋子 真澄三奈子 増本宣世
松井洋子 松浦ひろ子 松尾菊恵 松尾智子 松岡和子 松角貴子 松崎ひとみ

松下卓治 松下京 松田恵美子 松田孝子 松永真理 松延美佳 松葉由美子
松林和子 松本亜紀 松元質陽子 松本公子 松本清子 松本薫子 松本章子
松本真美 松本真利子 松本寿子 松山京子 丸岡不二子 丸山さより 三浦壽美
三浦芳子 三ヶ尻ちよ子 三木理恵子 御厨昭子 三阪隆子 水田尚美 水野ひ
ろみ 三角優子 溝部敬子 三谷佳子 皆木道子 南祐子 峰知子 峰ヤエ子 三
宅康子 三宅祐子 宮崎千恵 宮崎優子 宮崎智子 宮路慶子 宮下彩 宮園久仁
子 宮田優子 宮辺悦子 宮村智子 宮本きよ子 宮本久美子 宮本美乃 美吉扶
美子 三輪久恵 村上和代 村上優 村谷博美 室園幹子 めぐみ保育園 元木宏
美 森森子 森文子 森貴子 森浩恵 森浩志 森悠子 森容子 森崎志津子 森久美
子 森本教子 諸隈陽子 門司嘉代子 矢野部員子 八木里子 安永登孝子 安村
圭子 保元富子 保元内科クリニック 矢野恵津子 山内由加里 山口和代 山口
菊代 山口幸子 山口貴子 山口英明 山口陽子 山崎明美 山崎洋美 山崎芳子
山路美子 山下晶子 山下恵江 大和圭子 山根啓子 山道雪恵 山村純子
山本淳子 山本恭子 山本弥生 山本陽子 倉慶子 弓場美香 弓場慶子 吉岡す
みれ 吉開百合子 芳川百合恵 吉田久美子 吉田純子 吉田由美 吉竹佐智江
吉谷尚美 吉丸満代 吉村淳子 吉森睦子 米田知代 力竹明美 笠鈴子 若松
浩美 若松睦子 和才ひとみ 渡邊和子

【北海道】 1名 【福島県】 1名 【東京都】 5名 【神奈川県】 1名
【愛知県】 1名 【三重県】 1名 【大阪府】 11名 【兵庫県】 8名
【鳥取県】 13名 【島根県】 31名 【岡山県】 11名 【広島県】 62名
【山口県】 41名 【愛媛県】 1名 【福岡県】 32名 【佐賀県】 19名
【長崎県】 33名 【熊本県】 105名 【大分県】 62名 【宮崎県】 29名
【鹿児島県】 30名

計776名(匿名含む)

●マンスリーサポーターの皆さん
相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 上田英子 植
田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大塚卓子 大久保伸子 大
久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大塚満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山
涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子
倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤幸介子 津津悠子 齊藤美代子 阪口香奈
子 坂口馨子 櫻井美恵子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤二江 佐藤進一 佐藤照
子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部
千鳥 土持秀男・由利子 朱加 網脇牧子 坪川裕子 富永隆史 島井原桐子 鳥原
良子 永江之子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 中村洋子 榑
崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富貴代 廣松初美 深川百臣 福井
初子 福本勲子 藤田優子 藤本孝子 洲田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松本幸
美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野佳子 宮野義治 村田聡子 村西美由
紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄
子 吉丸隆子 渡邊久美子 渡邊真志子

計126名(匿名含む)